

電

大機密第一六七號

明治四十二年十二月二十四日

大湊要港部司令官上泉 德



軍務局



海軍大臣男爵齋藤 實殿

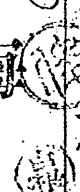
驅逐艦電状態ノ件

電ノ状態及潜水作業進行ノ模様報告ノ為本日一先歸港
セシ青山第四駆逐隊司令ノ報告ニ依ル電ハ右金室機械
室間ノ隔壁附近ニ於テ船体兩断セラレ去ル十九日發見セシ船
體ハ即ケテ崩壊シテ然モ此部ハ沈没ノ際水中轉覆セシ
モノノ如クノキリノ上甲板下ニ司令塔煙突等ヲ以テ
海底ニ支ハラシ又後部音響機等ノ附近存在スル未

司令官



各班



0606 三

1-7

1-19-8

ヲ發見スルニ至ラス目下專ラ其部ノ搜索中ニアリ而シテ沈没位置
 深水ナルト天候不良ハ作業ラレテ甚ガ遲緩困難ナラシム
 函館市中潜水業者四十有余名ノ内此深水ヲ潜リ得ル者
 僅ニ四人ノミ然モ其潜水状況ハ水面ヨリ海底ニ至ルニ二分時
 海底ヨリ水面ニ出ツルニ三分時海底ニアル時間約三分時合計
 一回ノ潜水時間最上限約八分時ニ過キズ加フルニ使用セル潜水
 器ハ舊式ニシテ電燈電話ノ設備ナレ如上ノ状況ナルヲ以テ彼
 等ノ報告ハ頗ル不明瞭ノ處多シト云モ其言ヲ綜合スルハ前
 半部ノ状態ハ大略別圖ノ如ク即チ機械室隔壁ノ部ニ於テ折
 断セラレ后方二個ノ煙突ハ海底ニ埋マリ居ルカ或ハ屈折レ前
 部ニ司令塔ニテ海底ニ支ヘラル后金室ヨリ前部艦底ニ一ツノ
 損所ナク潜水支ハ最初第一浮標索ヲ下リテ艦底ヲ歩行レ
 遂ニ第四ニ至ル迄ノ浮標索ヲ附着セリ司令塔ヨリ後方海

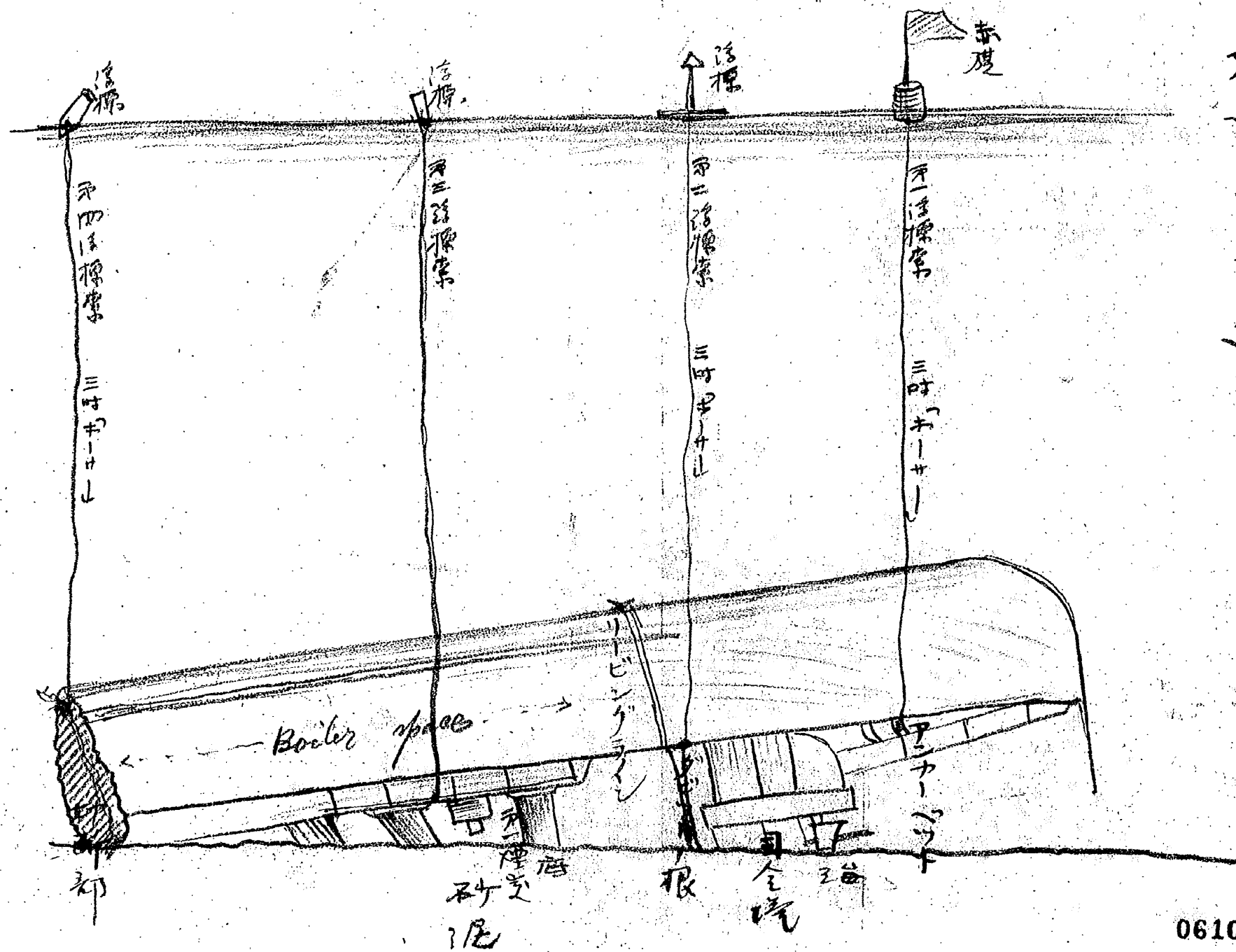
0607

底ニ格着セル上甲板ノ状態ハ暗黒ニシテ明瞭ナラス右ノ如キ
次第ナルヲ以テ前半ニ對スル引揚ノ成否ハ目下熟慮中ニ
シテ尚ホ精細ノ調査ヲ進ノントス又後半部ニ對シテハ去ルニ
至日ヨリ函館船渠會社ト協定ヲ遂ケ目下搜索中ナリ
而シテ全般ノ状態ハ之ヲ詳知シタル上ニ於テ更ニ所見ヲ
開陳セントス (附畧圖一通)
右報告ス

(終)

0608

電燈塔の略図



0610

供覽

電

軍務局

柄

海軍本部

第三部

第四部

會計課

大正五年一月二日

明治三十五年一月二日

大連軍港部司令官上泉徳彌

海軍大臣男爵齋藤實殿

駆逐艦電沈没状態能心関を辨

客月七日掃海法ヲ以テ電、後半部ヲ擇ム

付翌廿八日由ヒ司令取逐艦臆ニ鉄製浮標及ケ

其他必要ナル材料ヲ塔載シ同艦ヲ出給ニ洩遣シ

ラテ大休、調査ヲ終リ昨一日帰港セシ青山第四駆逐

隊司令ノ報告ニ依ルバ電水中ニ在ル状態別圖表

一第ニ、如シ若半部ハ甲板ヲ上ニテ其斷端ヲ船ノ

一奇ニ、前部ヲ中央ニテ約半五度、文角ヲ相重

ニ射度ヲ脱着シテ其位置ニテ

1-12

13

0611

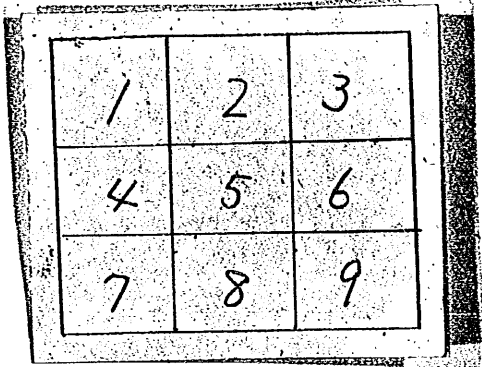
船体中部及前半部上甲板面其他ノ調査ハ海底ノ
 探キト天候悪シキ事ト昂リ加ラズ日中ノ短少ナルヲ相
 待テ作業ニ甚々シキ妨害ヲ成シヨリ以上ノ調査員到着
 方面潜水業者ノ能クニ處ニ非ズ然レモ事ニ沈没
 位置ハ潮流弱ク底質砂地ニシテ硬ク泥土ハ僅カニ上
 面ニ三寸ヲ覆フツミナレバ急速現狀ニ変ズル事ナク日脱落
 シタル発射管モ必ズ其附近ニアルニシテ想像スレバ之ガ掃海
 ハ駆逐艦其物ニ妨グラシ出来ズ然レモ底質潮流關係
 上直ニ埋没スル事ノ慮ナキモト認メ電現狀調査ハ
 今回ツラシク先ツ中止スル事ヲ決定セリ
 俾而之ヲ引揚ケ得ルキヤノ向思ハ海底ノ深キ為ニ作業
 甚々困難トシテ遂ニ散ル不可能ノ事ト業非ズ
 ルニシト信シ其方法材料ノ經過等ニ就テ目下調査

熟慮中より而して愈々之ヲ揚げて得しと決定し且ツ打
揚ぐ經費入其他シ考ル慮ニ有利ノ事ヲ謀ルナリト認む
至モ之カ作ル事ホシ着手ハ春暖天疾平穩ノ候ニ入
シ待テ開始スルヲ得策ナリト認ム
右報告ス

(終)

0613

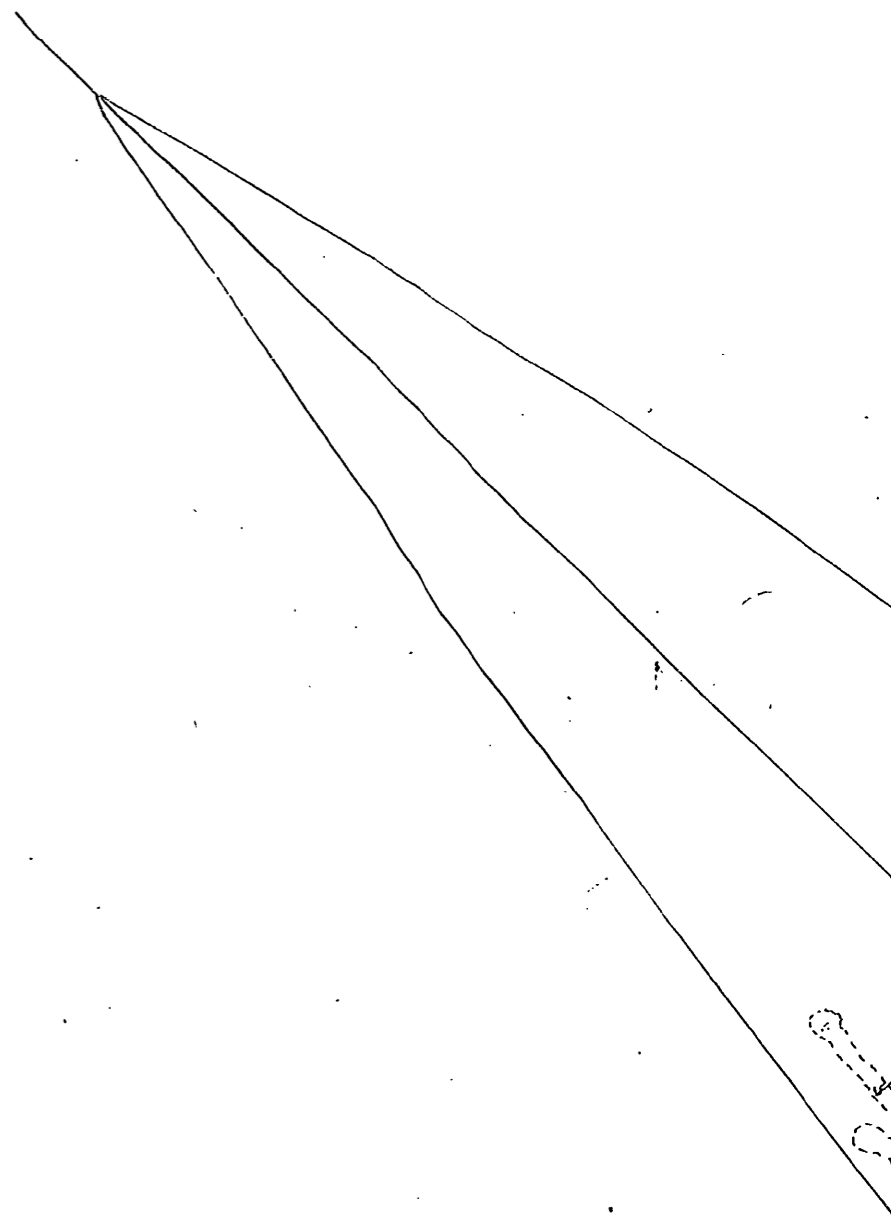
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0615
0616
0617

0618
0619
0620

0621
0622
0623

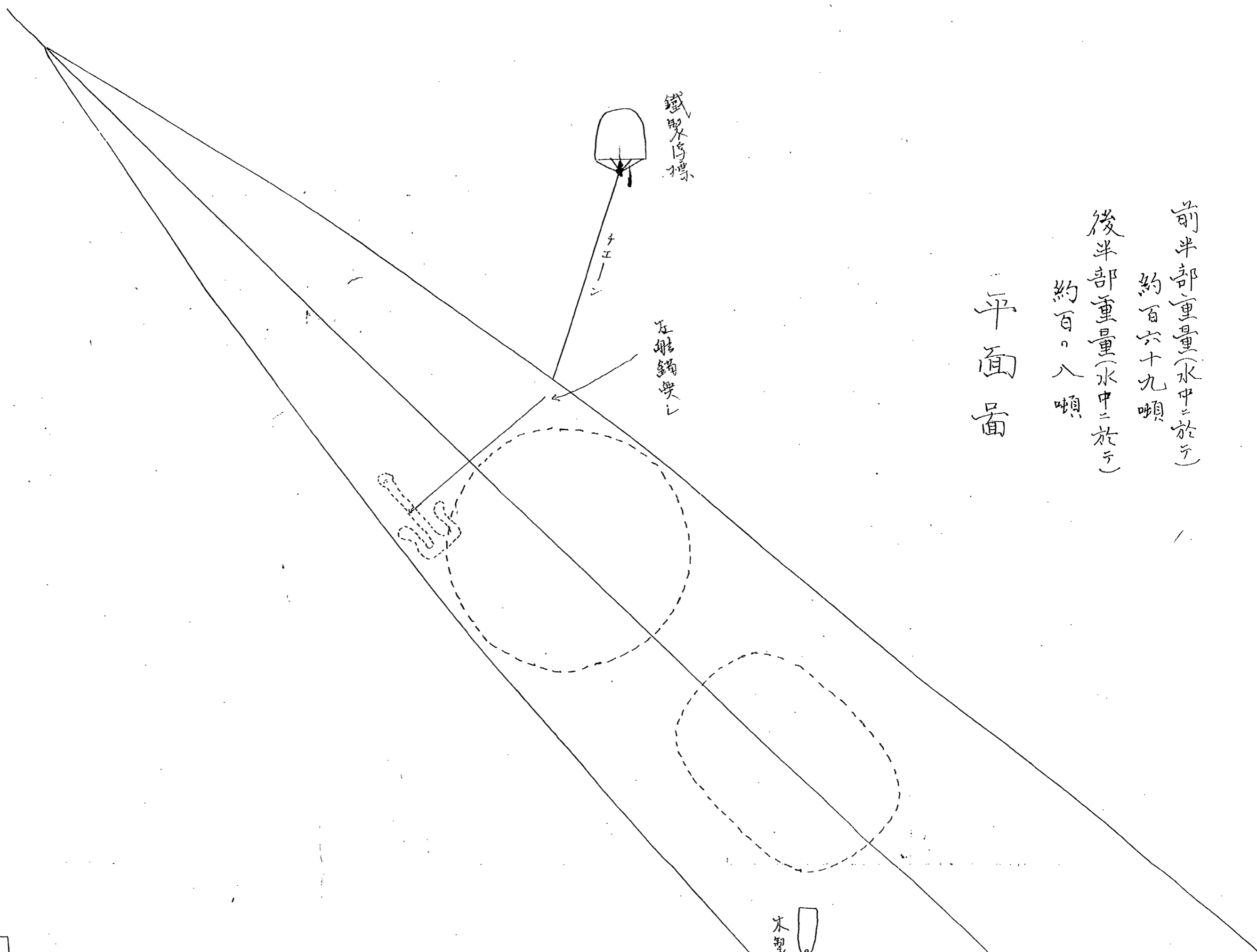


□ 文

両 207

1 □

1 □



前半部重量(水中ニ於テ)
 約百六十九噸
 後半部重量(水中ニ於テ)
 約百〇八噸

平面圖

木製

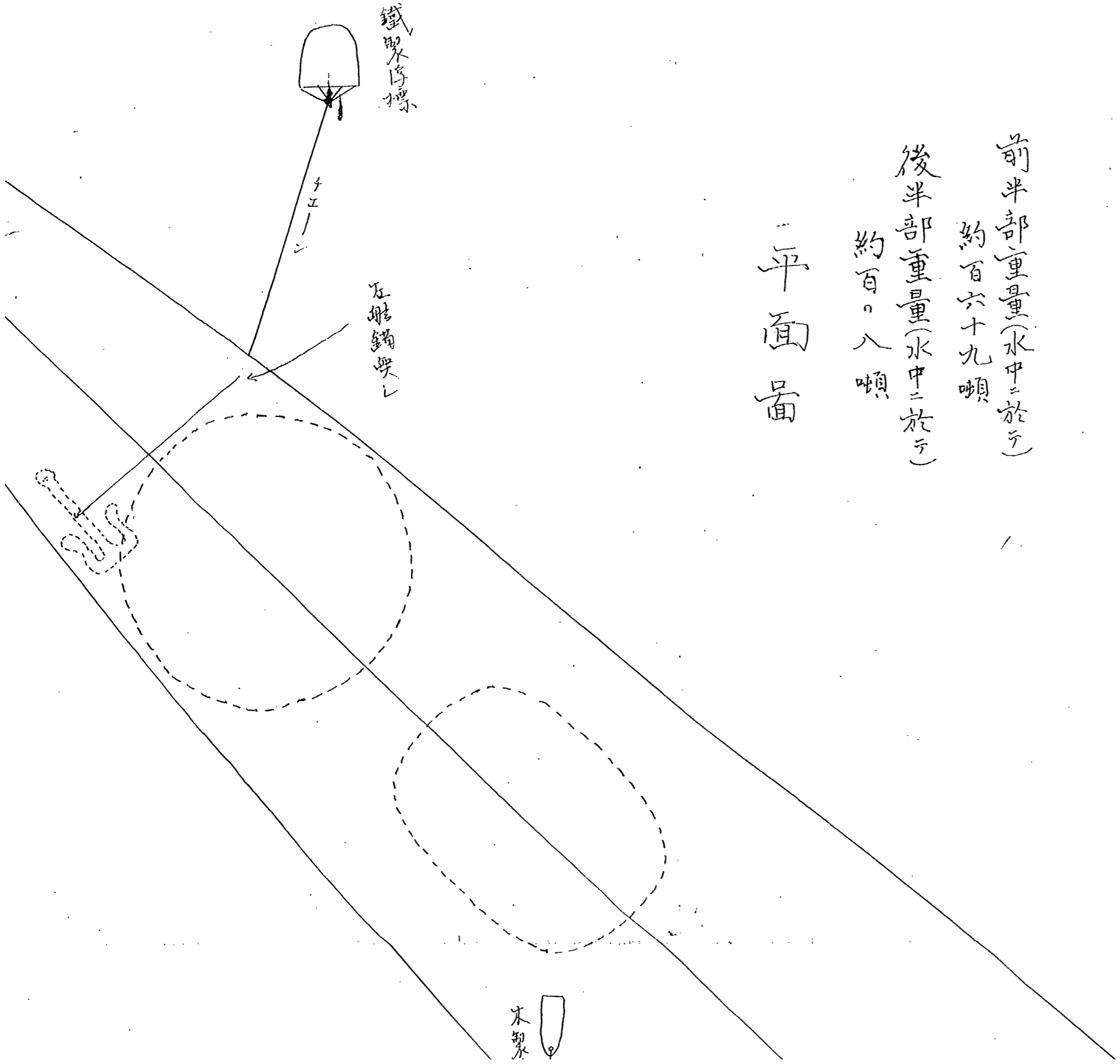
木製浮

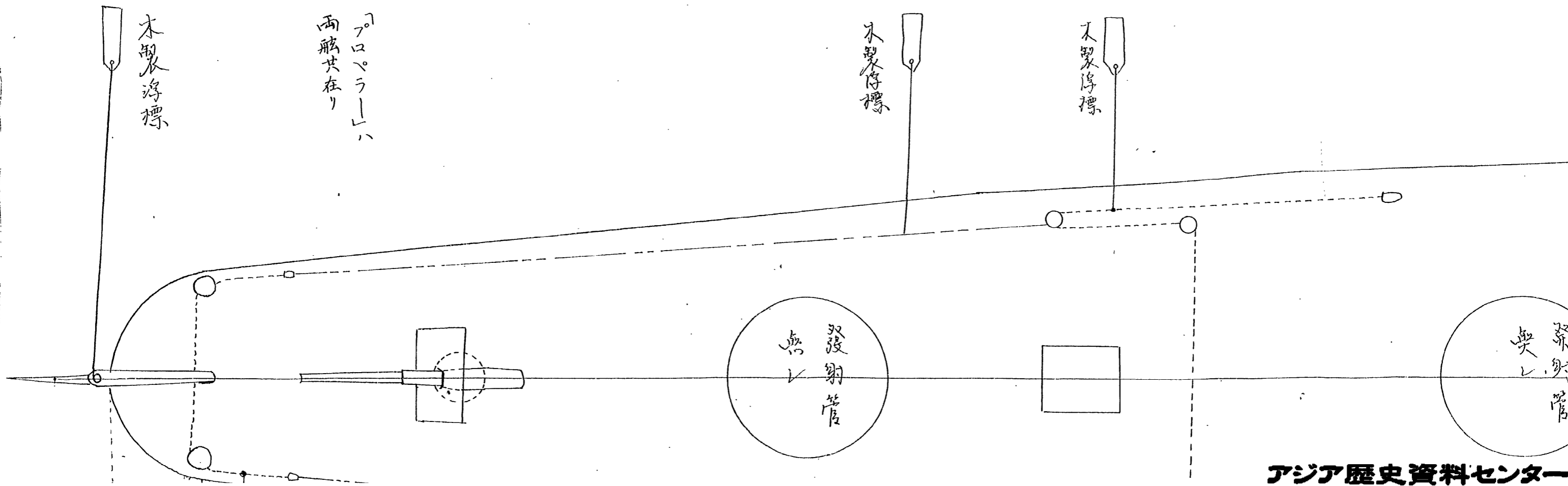
別番第壹

明治四十二年十二月三十一日

前半部重量(水中ニ於テ)
約百六十九噸
後半部重量(水中ニ於テ)
約百〇八噸

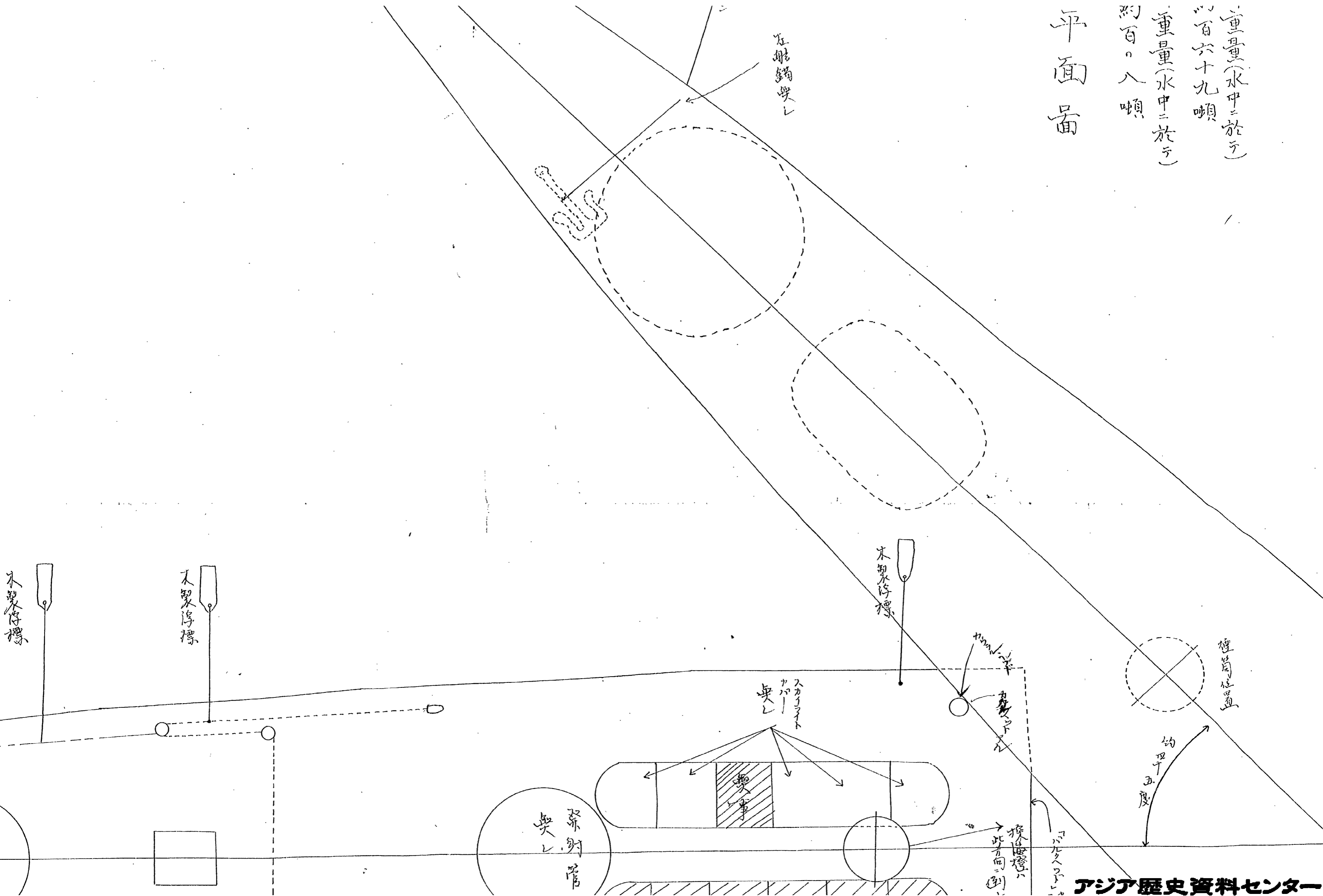
平面圖





平面圖

重量(水中ニ於テ)
以百六十九噸
重量(水中ニ於テ)
約百八噸

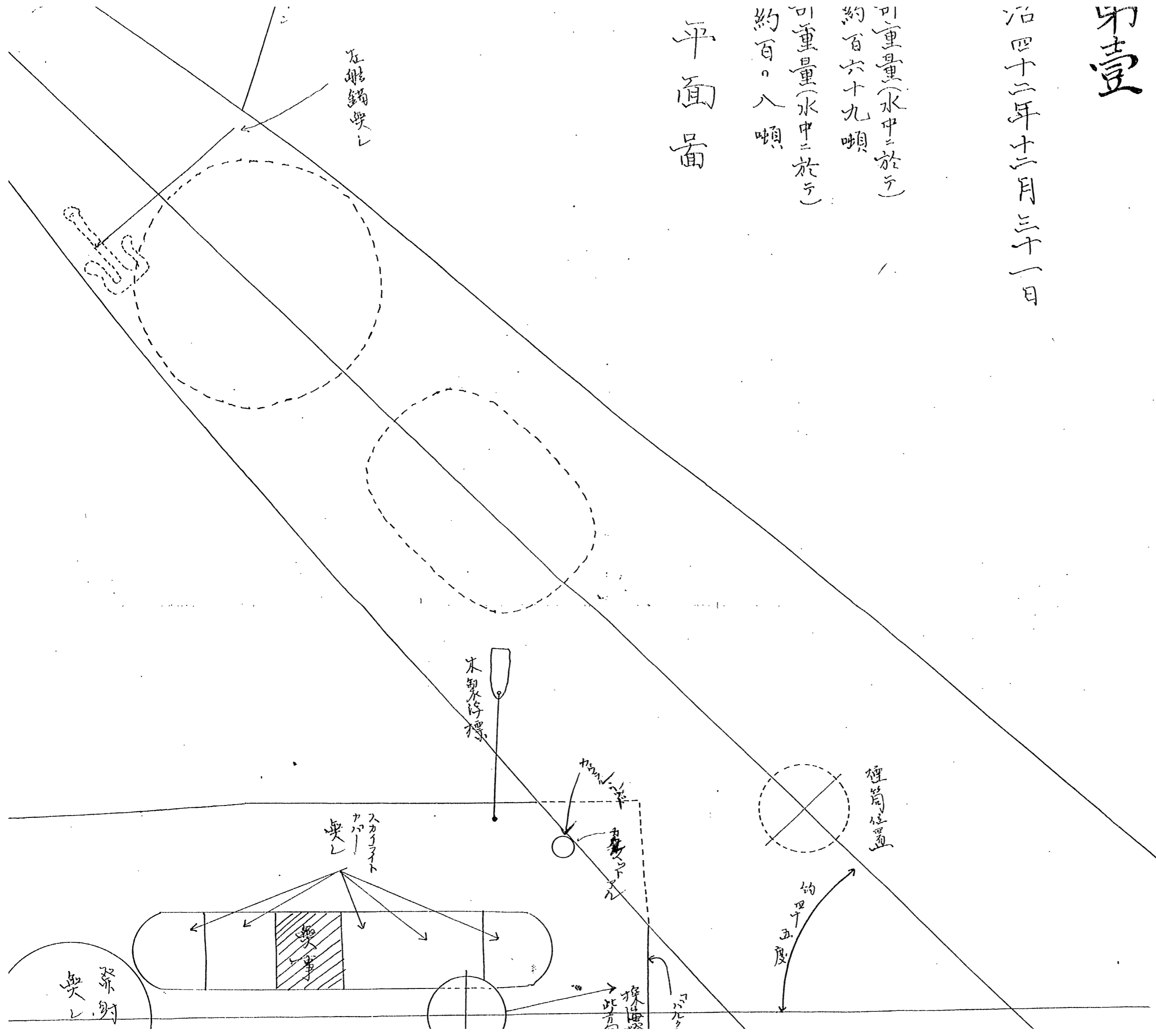


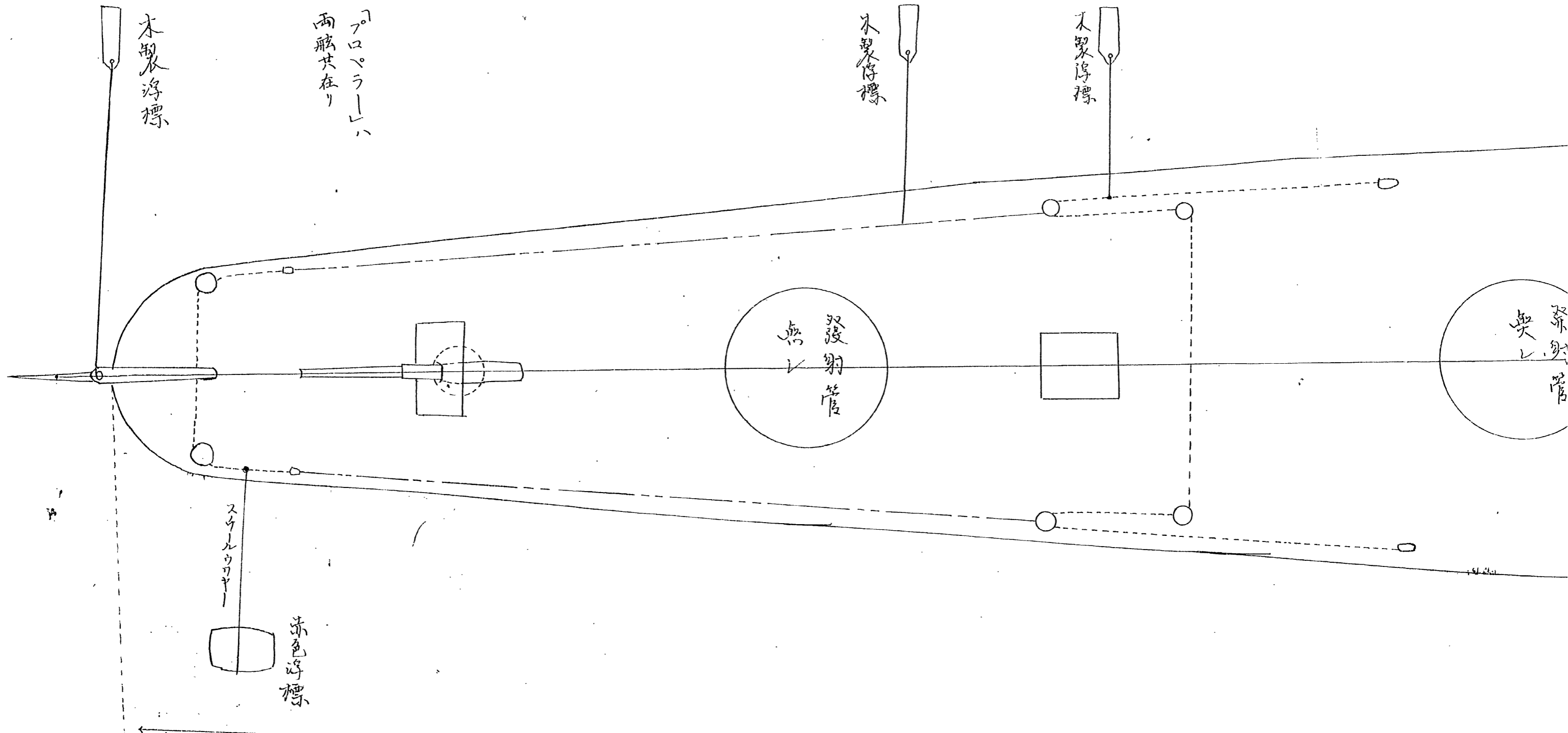
和壹

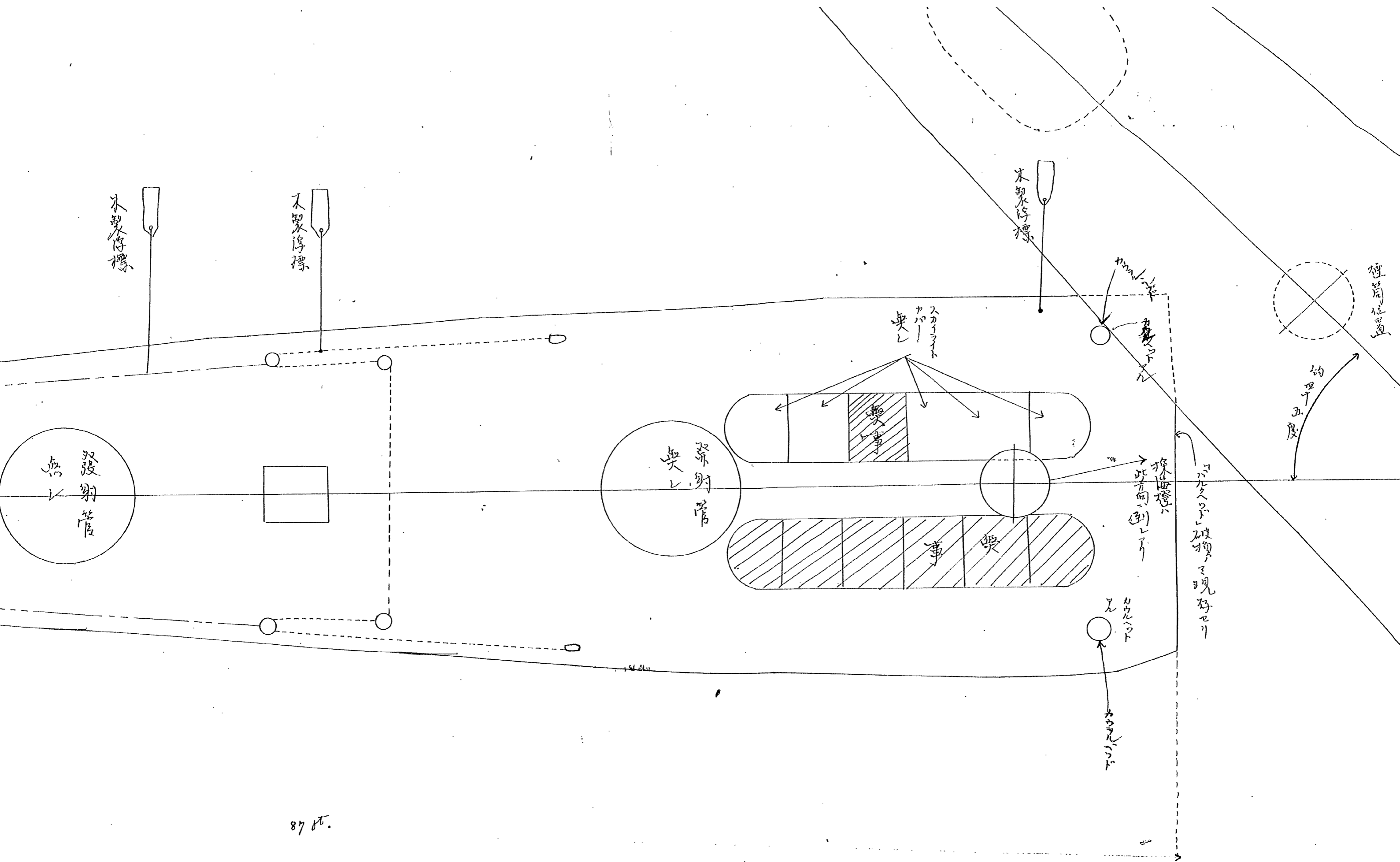
治四十二年十二月三十一日

可重量(水中ニ於テ)
約百六十九噸
可重量(水中ニ於テ)
約百。八噸

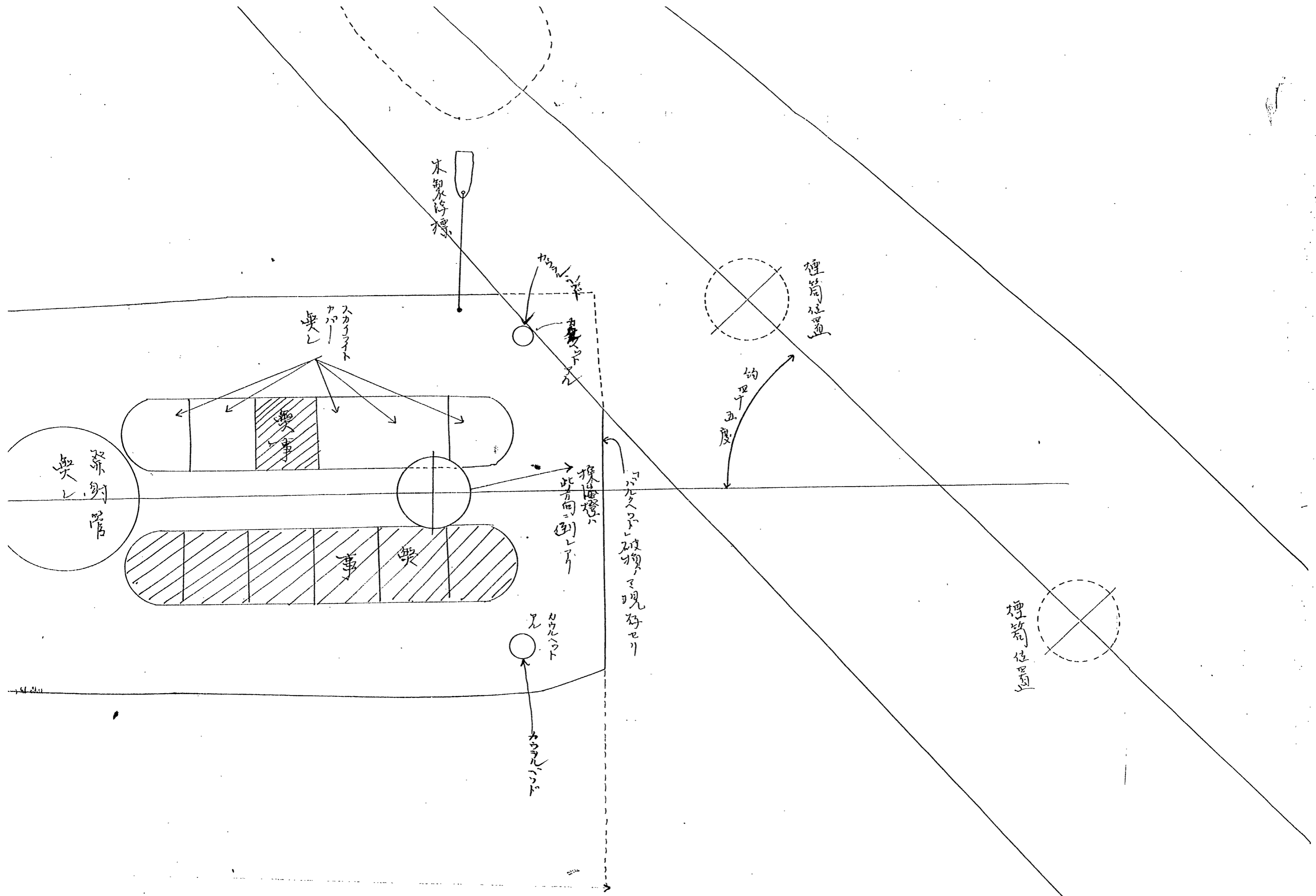
平面圖





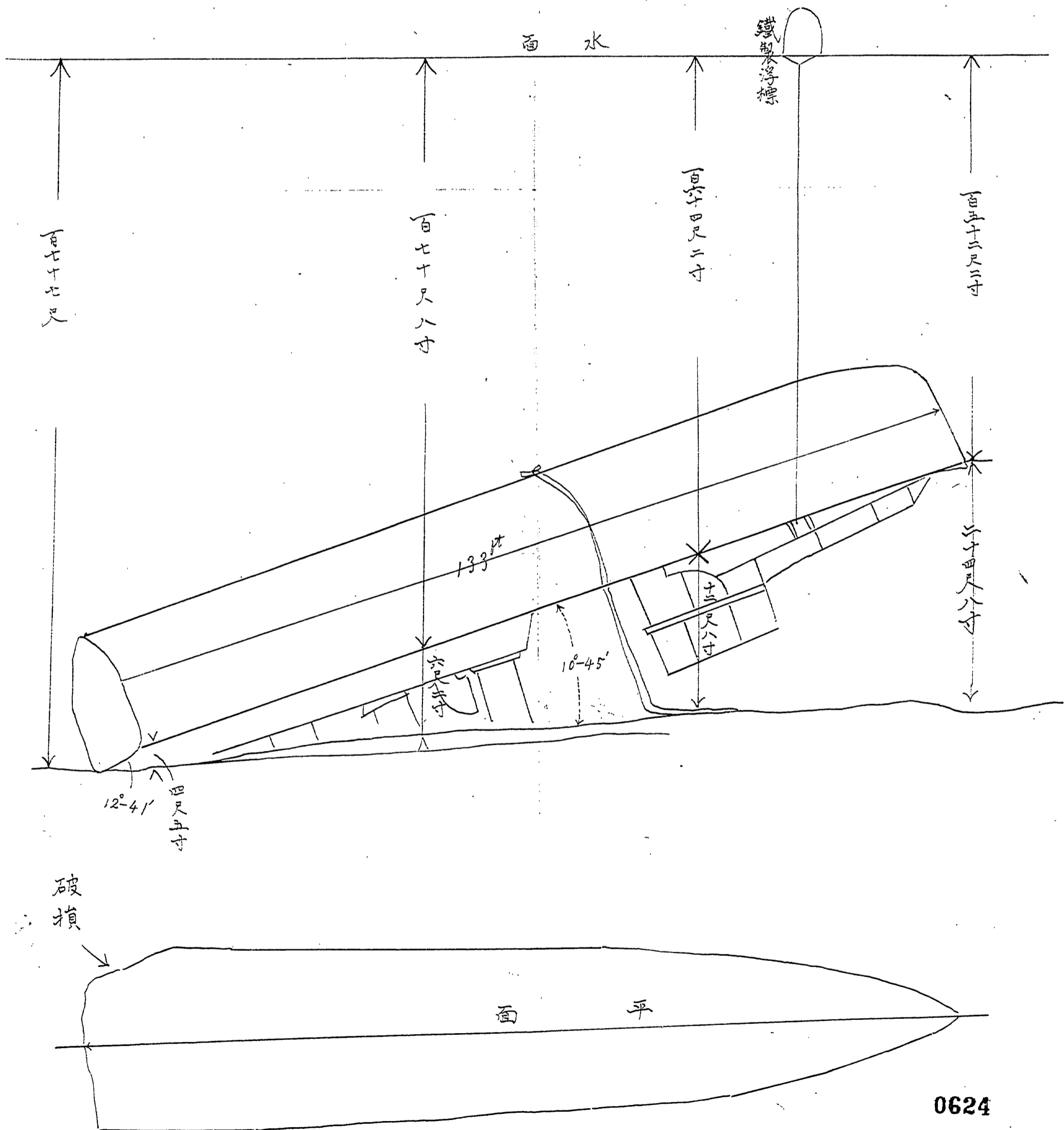


87 pt.



別冊第貳

明治四十二年
十二月三十一日
午前十一時半
測程ス



0624

供覧

電報

軍務局

信

艦政本部

軍令

受信人住所氏名

友

第五

五月廿七日

午前

午後

局

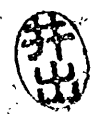


Handwritten signature

報



指定



受信人住所氏名

番着信

紙數

二

第

四

九

號

事記

着信日附印

Handwritten number 78

Handwritten number 123

Handwritten signature

イム、ビ
一サクヒコウナイニ
ヒロノトコロマデ
キイレタリサクヒ
ウハノタメデキ
電前半部一昨日港内二十尋
處迄引合タリ昨日ハ風波為メ
出来ズ
五月廿七日
大要司令官

0625

6-28

供覽

電

田覽後電務局庚シ

海軍

八月三日

出印



八月一日 午後五時三十分

局發本省

發信者

大要司令

受信者 海軍大臣

電報譯

會館

艦政本部

第三部

會計課

經理局長

軍務局

軍部

電後半部 船渠會社前 且尋ノ所
持来リ 今フツリツパニ 川上ヶ方
準備中局

各班



(花崎納)

0626



電報送達紙

局著		局發		受信人姓名	
當務者	受信 多 上時 分	受信 午 時 分	第一 月 日 號	報局	受信人姓名 大 人 氏 名
カ ウ エ ル シ ム ノ コ ウ ハ カ マ イ セ				定指 3 3	受信人姓名 大 人 氏 名
事記				著信番號 第 號	注意 他人へ宛てる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ちに之を配達したる電信局所に返戻すべし決して其受取本大へ直送すべし又手渡すべからず
印刷局著				附目	著信番號

官報
時間外電報



以局刷印月四年二

0627



供覽

回覽後軍務局庚シ

陸

艦政本部

第三部
會計課

軍務局

軍令部

經理局

海軍

七月廿一日 午後五時五分

發信者

大儀要海部員

受信者

海軍大臣

電報譯

會 8

昨日電海軍部一哩ニケル水線
五尋ノ塔内と引入レルモ云
作事ヲ中止セリ
次中再工ス

局員

(花崎 惣)

0628

電 報 送 達 紙

局	著	局				發		名 氏 所 居 人 信 受		
當務者	受信	付	及	第	報	局	號	日	月	時
	午	時	分	時	分	字	分	分	分	分

イ
サ
イ
ノ
ス
ウ
ノ

定 指

事 記

番 著
號 信
第

意 注

他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ち之を配達したる電信局所に返戻すべし決して其受取本人へ直送し又は手渡しすべからず

名 氏 所 居 人 信 受



製局刷印月四年二十四治明

0630

0631

寫

明治四十三年八月六日 艦政本部長

大湊要港部司令官宛

電報

大要機密の電引揚、件承認本人へ電令済猶

貴官ヨリモ傳達ラ乞フ

明治四十三年八月六日 艦政本部長

函館区舟天所

松田助八宛

電報

七月二十九日付願出、~~件~~配系艦電引揚期日四十三年九月三十日迄延期、件承認ス

(終)

係

置

0633

艦本第三一六三号

明治四十三年八月六日

艦政本部長

大湊要港部司令官宛

駆逐艦電引揚延期ノ件

大要機密第一〇〇号ヲ以テ移牒相成候駆逐艦電引
揚期日延期ノ件承認ノ上本日電報ヲ以テ本人
共旨申遣候條右申了知相成度
右申進ス

(終)

電報

0634

大要機密第一〇〇號

明治四十三年七月二十九日

上泉大湊要港部司令官

松本艦政本部長殿

電引揚作業延期に關する件

駆逐艦電引揚受負者松田助八ヨリ別紙延期願提

出し來り候ニ就キ調査候處別紙作業報告摘要記

載ノ通リニシテ之ヲ概括スレハ左ノ通リニ有之候

一、本年四月上旬ヨリ引揚材料蒐集ニ着手四月二十八日現場作業

ヲ開始シ雨來執心ニ作業ニ従事セシモ七月二十九日迄九十

三日間ニ於テ天候不良ニシテ作業ヲ中止セシ日八四十八日間ノ

多キ、及ヒタリ

0635

二、五月二十三日、試験作業ニ於テ結果良好ナルヲ以テ本作
 業ニ轉セシニ二十六日不幸風波急ニ起リ解放ノ暇ナクシ
 テ田材切断シ作業ヲ中止スルノ止ムナキニ至レリ
 三、最初ノ設計通り汽船長幸丸ヲ使用スルトシ其設備
 ニ取掛リシニ船主ヨリ拒絶セラレ止ムナク他方面ヲ搜索セシモ
 適當ノ汽船ヲ止ムラ得ス大艇舟ヲ使用スルコトセリ
 四、作業開始當時三十人以上潜水シ得ル強ク潜水夫
 十四名アリタレ漸次身体衰弱ヲ来シ不幸ニシテ一名
 遂ニ死亡シ目下健康ナルモノ僅カク四五名ヲ余ル悲境ニ
 アリ且又小蒸汽艇長一名作業中溺死シ作業ノ着手
 以來二名ノ死亡者五名ノ負傷者ヲ出シ元氣大ニ沮
 喪セリ

五、六月二十五日第二回ノ前半部引揚作業モ風波ノタメ失敗セ

シヨリ潜水夫間ニ一種ノ米信ヲ生セリ曰ク後半部ニ溺死者

(加川上等機関兵曹ナラン)ノ死体存在スルノ疑アルヲ以テ前半

部引揚ヲ中止シ先以テ後半部ヲ揚ゲ死靈ヲ慰スルコ

テラサレハ引揚作業成功覚束ナシト元ヨリ一種ノ米信ニ局

キスト益モ元氣回復ノ一手飯トシテ彼等ノ説ニ全意シ

後半部ヲ先キ引揚クルトセリ

六、最初ノ計画悉ク粗略シ殆ント費用三万圓内外ヲ消費

セシモノノ如ク資金調達ニ苦心ノ状アリ(然レモ事業ヲ放擲ス

ル如キ人物ニラスト認め)

之ヲ要スルニ受負者ハ彼ノ資力ト知識ノ全能ヲ之ニ傾倒シ熱心作

業ニ従事セシモ天候ノ不良ト人事其他ノ異変ハ契約期日内ノ

作業結了ヲ妨害セシモノニテ本人ノ怠慢ト認めルコトヲ得ス且

又前半部ハ已ニ沈没位置ヨリ一理内方二十尋ノ所迄引入レテ

ナルヲ以テ以前ニ比シテ作業甚ク容易ナリ又發射管ニ阿水雷ニ
個ハ要員者工場ノ海岸ニ引來レリ後半部ハ二十三日捲揚機
備完成シ天候定マルヲ待テ捲揚ニ着手セハ四五日内ニ上架スルコ
トヲ得ルノ状況ナルヲ以テ契約第四條但書ニ依リ延期ヲ承認
セラレ事業ヲ健續セシムルハ彼我兩者ノ利益ニシテ成功又疑
ナシト認ム

右意見ヲ具シ移牒ス

(終)

0638

延期願

明治四十三年四月廿二日附テ以テ申命令ニ相成目下工事中
ニ係ル電艦曳揚方請負工事ニ関スル成効期限ハ七月廿
一日迄ノ契約ニ付是非其期間内ニ成効致ス可ク全力ヲ尽
シテ工事中ノ虞該工事ハ沖合且ツ海深ノ場所トシテ作業
極メテ困難ニシテ豫期計画ノ用リ進捗セサル而バカ天
候潮流等ノ不可抗力ニ遭遇シ事故續出シ為メニ工
事意外ニ遅延シ来シ契約期限内ニ成効ノ見入ニ
無之ニ付来ル九月廿日迄即チ貳ヶ月間延期ヲ猶豫ニ
預リ度候間何卒特別ノ特許議ヲ以テ特許可被成
下度此段奉願候也

明治四十三年七月廿九日

函館区弁天町吉澤田 函館海軍工場

松田助八

海軍艦政本部長松本和毅

正切

0640

電曳揚工事之関スル作業報告摘要

摘要

月	日	摘要
四月	廿八日	作業開始現場行潜水調査ニ従事ス
四月	廿九日	風波、為、現場作業出来ス工場道具調ラナス
五月	一日	現場行キ潜水作業ニ従事ス
五月	二日	風波、多現場作業休上道具調ラナス
五月	三日	同上
五月	四日	現場行キ潜水作業ヲナス
五月	五日	同上
五月	六日	現場行キ潜水作業ニ従事ス
五月	七日	同上
五月	八日	同上

0641

五月九日	現場行キ潜水作業ニ従事ス
十日	全上
十一日	全上
十二日	現場潜水作業中風波起リ午後三時中止ス
十三日	全上 午後四時中止ス
十四日	降雨且波浪ノ為メ一般休業ス
十五日	風波ノ為メ現場休業工場道具作リヲナス
十六日	現場行潜水作業ヲナシ尙徹夜ニ艦内空氣入ガナス
十七日	全上
十八日	現場行キ潜水作業中降雨且風波トナリ午前十一時中止
十九日	風波ノ為メ現場作業休止道具作リヲナス
廿日	全上
廿一日	全上

在崎内

0642

<p>廿二日 現場潜水作業ヲナス本日ヲ以テ前半部船体ニ入 トロツブ六本、ブロックリ十二個取付方終ル</p>	<p>廿三日 強度試験用モツソ一艇現場曳行捲試ヲ為セシ 結果良好ニ付設計ヲ変更シテ試験作業ヲ其終本 作業トナセリ(別紙設計変更理由書参照)午後 十時迄捲揚ヲナシ約百拾尺曳入レヲナス</p>	<p>廿四日 午二前四時ヨリ捲揚ニ従事シ尚ホ引續キ徹夜ニテ 捲揚ヲナス</p>	<p>廿五日 午前五時ヨリ曳船シ海深二十六尋ノ処迄曳入レ更 ニ捲揚ヲナシ午後十時迄ニ海深二十一尋ノ処迄曳 入レヲナス</p>	<p>廿六日 午前六時ヨリ捲揚續行中午後三時頃ニ至リ風波 起リ杉丸太故障ヲ来ニタル為テ全部スライキ</p>
---	--	---	--	---

一五
一五

0643

五月廿七日	海底ニ沈下ス	波浪ノ為メ一般休業ス
廿八日	現場潜水ノ上沈下位置状態調査ヲナス	現場潜水ノ上沈下位置状態調査ヲナス
廿九日	風波ノ為メ現場作業休止シ道具調査ヲナス	現場作業休止シ道具調査ヲナス
卅一日	同上	同上
六月一日	現場行キ潜水ノ上道具調査ヲナス	現場行キ潜水ノ上道具調査ヲナス
二日	同上	同上
三日	同上	同上
四日	現場行キ風波ノ為メ中止最初設計通り汽船長幸丸ヲ使用スル事トシ設備取掛リシニ船主ヨリ拒絶セシレ解舟ヲ使用スルヨリ外途ナキヲ以テ工場ニ於テモツソ一準備ヲナス(設計変更理由書参照)	現場行キ風波ノ為メ中止最初設計通り汽船長幸丸ヲ使用スル事トシ設備取掛リシニ船主ヨリ拒絶セシレ解舟ヲ使用スルヨリ外途ナキヲ以テ工場ニ於テモツソ一準備ヲナス(設計変更理由書参照)

0644

五	日	風波ノ為ノ現場作業休止モツソ一準備ヲナス
六	日	全上
七	日	現場出業中風波ノ為ノ午後二時中止帰港ス
八	日	風波ノ為ノ現場作業中出来スモツソ一作業ヲナス
九	日	現場作業中風波起リ中止帰港ノ上モツソ一作業ヲナス
十	日	現場行终日潜水作業ニ従事ス
十一	日	全上
十二	日	全上
十三	日	現場出業中大時化トナリ辛クテ午後四時帰港ス
十四	日	現場行キ潜水作業ヲナス
十五	日	現場潜水作業ヲナス
十六	日	現場行潜水作業中風波ノ為ニ午限リ休止ス
十七	日	風波ノ為ノ現場休止ニ捲揚準備作業ヲナス

0645

六月十八日	現場行々潜水作業ヲナス
十九日	全上
廿一日	降雨ノ為ノ一般休業ス
廿二日	波浪ノ為ノ現場休止工場ニ於テ捲揚準備作業ヲナス
廿三日	現場出業中午後二時ヨリ強雨トナリ休止ス
廿四日	時化ノ為ノ現場休止工場ニ於テ捲揚準備作業ヲナス
廿五日	捲揚用モッソー船ヲ現場曳行キ取付ケ上徹夜ニシテ捲揚準備ヲナス
廿六日	前日ヨリ引續キ捲揚準備中処午前十時ヲ風波起リ「モッソー」船繫留不能ブロック全部取外シ曳船セラレ帰着ス
元来潜水者三種ノ迷信アリ海中事業ハ若シ溺	波浪ノ為ノ現場作業出来ス道目大詭ヲナス

0646

死者アル中ハ最初ニ其死体ヲ引揚ケサレハ崇アリト然ル ニ電ノ機械室(後半部ニ属ス)ニ加川上葺機関兵曹日 ノ死体アルノ疑アリ故ニ前半部ノ引揚ヲ中止シテ後半 部ヲ揚ヲ先キニスルトセリ	六月廿七日 現場行キ二半ニ分レ艦首ノフロク取上方及艦尾ノ位 置附近ニ於テ魚形水雷搜索方ニ従事ス	廿八日 全 上	廿九日 現場行キ潜水ノ上魚形水雷搜索ヲナス	卅日 全 上	七月一日 波浪高リ現場休業道具調ニ従事ス	二日 現場潜水ノ上魚形水雷貳個発見海岸浅所ニ沈置ス	三日 風波ノ為ニ現場作業止ニモツソ一其他道具調べ	四日 全 上
---	--	---------	-----------------------	--------	----------------------	---------------------------	--------------------------	--------

0647

七月五日	現場行潜水作業ヲナス
六月六日	現場出業ノ処風波ノ為メ逆行シ工場ニ於テ準備作業ヲナス
七日	降雨ノ為メ一般休業ス
八日	天候不良ノ為メ現場作業出来スモフソ一組ニ作業ヲナス
九日	全上
十日	全上
十一日	全上
十二日	全上
十三日	全上
十四日	現場行ヤ潜水作業ニ従事ス
十五日	現場行潜水作業ヲナス

0648

..
廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	廿日	十九日	十八日	十七日	十六日
			全 上	風波ノ為メ作業中止	作業ニ従事ス本日ヲ以テ捲揚準備完成	全 上	風波ノ為メ現場作業出来ス捲揚用道具調ヲ入	全 上	全 上	現場出業潜水作業ヲ入	風波ノ為メ現場作業休止道具調ヲ入	全 上

0649

七月廿九日

海

自

花
崎
跡

0650

設計変更理由書

電號或揚工事に關シ曩に提出シタル設計書に基キ捲揚ノ祭ハ汽船ヲ使用スル事トシテ工事着手前ヨリ汽船長幸丸ヲ借船スル事ニ取極メ置キ四月二十八日ヨリ現場作業ヲ開始シ潜水ノ上艦底ハストロップヲ貫通シテプロツクヲ取付ケ高ホ本艦々首ノ分ハ轉覆シアル故艦ノ浮揚力ヲ補強スルタメ艦内ハ空氣ヲ送入スル筈アラエル事般ヲ尽シ漸ク曳揚ノ準備整頓シタルヲ以テ五月二十三日「ストロップ」及捲揚網ノ強力試シトシテ兼テ大船船四隻ハ大杉丸太ヲ以テ「モツソ」ヲ組ミ置キタルモノヲ現場へ曳船シ行キ取附ノ上捲揚ケテ試シタル處「ストロップ」及捲鋼共強力充分且ツ「モツソ」船船モ重力ニ耐得ラルル事ヲ確メ且ツ引續キ海上平穩ナルヲ以テ最初ノ計畫ヲ變

0651

更ニ其後モツソリ解船ニテ捲揚ケル事トトシ引續キ昼夜
 兼行捲揚ニ從事シ二十五日夕迄現場ヨリ港内ニ向テ
 約一海里海深貳拾壹尋ノ處ニ或来リ翌二十六日捲
 揚續行中午後二時頃ヨリ天候不良トナリ風波増々加リ
 解船ノ動揺甚敷爲モツソリ用ノ杉丸太ニ故障ヲ来シ
 刻々危険ノ状態ナルヲ以テ作費懣捲揚中ノアロツク全部
 ヲスライキレテ船体ヲ徐々ニ沈下シモツソリ解船ヲ或船ニ
 テ帰港ノ始末右ハ五月二十七日附ヲ以テ御報告申上候通
 リ有之候依テ今回ハ前計畫ノ通り汽船ヲ使用シテ捲揚
 クルコトトシ前ニ契約シタル汽船長幸丸ヲ回航サセ捲揚ニ
 関スル設備ヲナスニ當リ甲板上諸室其他ヲ取除クニアラサ
 レ作業出来得サルヲ以テ其旨船主ニ申入タル處船主ニ
 於テハ船体ニ損傷ヲ来ス可キヲ顧慮シテ承諾セス再々交

北緯

(久保田純)

涉ヲ重キタルモ同一理由ヲ以テ拒絶シ遂ニ破談ト相成致方
ナク夫レヨリ他方ニ交渉シタルモ工事ニ適當ノ船無之ノミカ
貸船ニ應スル者ナク斯レ時日ヲ空費スル片ハ時機ヲ失スルノ
上虞アルヲ以テ汽船ヲ使用スルノ件ハ如何ニ致方無之ニ付キ
前回ヨリハ一層強力ノ杉丸且ツ完全ノ船ヲ使用シモツ
ソレ仕掛ケテ以テ捲揚ケテ繼續スル事ニ変更仕候次
第此般理由書ヲ以テ申上候也

函館区弁天町一番地

松田助八

大湊要港部司令官上泉徳彌殿

海軍

0653

電 記

八月一日發

(久保田納)

艦政本部長宛

大湊要港部司令官

電

後半部船渠會社前五潁ノ処迄持々来リ今(スリッ

カ)ニ引揚方準備中心期願至急市詮議相成リシ

(終)

電 記

艦政本部長宛

七月廿八日發

大湊要港部司令官

電引揚請負者相田助八ヨリ期日迄期願出タリ事實
不得已モト認ム委細文

海 軍

田覽 供覽

氏所居人信

報

選

達

紙 軍務局

軍令

局 第五九七 報 局 報

受信者	借受	付受	第	報
務粉者	午	午	五	局
	九	九	七	報
	字	日	號	局
				報

官 報



同

Handwritten signature and notes

定指

Handwritten numbers and symbols

事記

Handwritten notes and stamps

Main body of handwritten text, including names and addresses, with several circular postmarks.

番著 意注 名氏所居人信

第 壹〇七 號

印附日局著



Handwritten signature and notes in the bottom right section



0656



軍務局長

局長

札幌 四月五日

山形 陸軍

中 陸軍 大佐

電 前中 部 トノ 前 中 守

山 形 陸 軍 大 佐

視 察 中 車 三 日 止

全 文 可 室 長 閣 下 知 照 所 在 付 手 取 込 申 上 申 上

ボコイ

四三、六五、赤土、竹三、五、ト、電、リ

0657

供覽

艦政本部

軍務部

九月四日 午後五時三十分 夕 局發
本省義

發信者 大湊要港部司令官

受信者 海軍大臣

電報譯

電 前半部二日船渠會社前五尋ノ所ニ
持チ来リ七日(スリップ)ニ引キ揚グル豫
定

荷員

中村大佐ニ祝意ス(刻電)

音前九三〇

(花崎納)

海軍

九三〇

0658

紙 達 送 報



局 著		局 發			名 氏 所 居 人 信 受	
受 信 借 務 者	借 受 年 月 日 時 分	借 受 年 月 日 時 分	第 報	局 報	カ タ シ マ シ マ シ マ	
1 毛 2 = 1 ル 4 2 ヒ 4 王 7 1 止 セ 1 行 7 1 ヒ 2 七 行 1 1 止 2 七 = 1 1 止 2 七 ヒ 七 ト カ ハ 止 七 ト カ ハ 止 七 ト カ ハ 止 七 ト カ ハ				定 携	同 報	
事 記				番 著 第 六 〇 號	意 注 他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ちよ之を配達する電信局所に返戻すへ決して其受取本人へ直送又は手渡すへかたす	名 氏 所 居 人 信 受 カ タ シ マ シ マ シ マ
				印 附 日 局 著	カ タ シ マ シ マ シ マ	

製局刷印月四年二十四治明

0659



0660

紙 達 送



氏所居人信受

局 著	局 發	報
七 時 分	九 月 七 日	第 一 號
字	分	局

Handwritten Japanese text, likely a recipient's name or address, written vertically.

Large block of handwritten Japanese text, possibly a message or a list of items, written in a cursive style.

定指

事記

注意
他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ち之を配達したる電信局所に返戻すべし決して其受取本人へ直送し又は手渡すべからず

著信 番號 第 六九 號

印附日局著



製局刷印月四年二十四

0665

年 録 証

0666



供覽

海

陸軍
海軍
第三

艦政本部

軍務局

海軍省

出

九月 六日 午後七時二十分

發信者

大澤 豊太郎

局發
本省

海軍

海軍省
當

受信者

大澤 亮

電報譯

會

新

このまゝ引續き天候不良、
準備作業進レ雷、スラツゴ
上ノ方、土日、延引ス

員

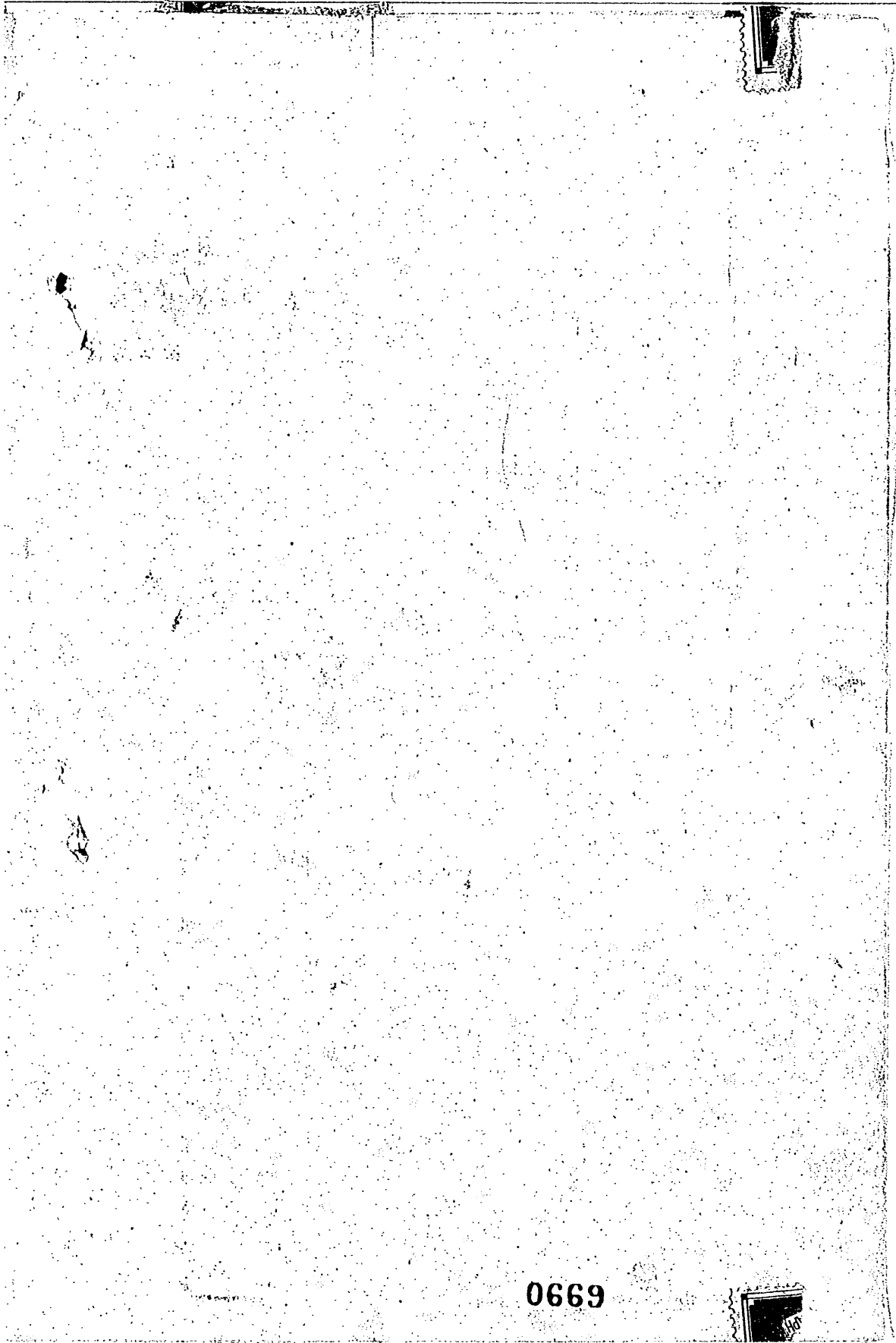
雷

海軍省

海軍省

(花崎納)

0667



0669

電報 報 信 紙 軍着

局	着	局	局	發	名氏所居人信受
取扱者	受信	付午後	付午後	第	友
二	午前	後	後	一	報
	分	分	分	九	
	分	分	分	月	
	分	分	分	五	
	分	分	分	日	
	分	分	分		
	分	分	分		
	分	分	分		
	分	分	分		

テニキフリヨウノタ
 イナヅマヒア
 エンインス
 天幕不良ノ為ノ電
 引揚延引ス
 九月十日
 上自水

定指	番着信	數紙	名氏所居人信受
ムヨニ	五	第八五號	カミイツク
事記	印附日信着		九日

0670

電 報 着 信 紙

局 着		局 發					名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	付午前	第	コ	友	知	
ソ	シ	時	時	五	コ			
	分	分	分	号	局	報		
シ ヲ						定 指		
ヲ ヲ						事 記		
						番着	名氏所居人信受	
						信		
						紙		
						第	カ	
						六	カ	
						二	カ	
						號	カ	
						印附日信着		

0672

電 報 着 信 紙

局 着		局 發					名氏所居人信受					
取扱者	受信	付午後	受午前	時	分	月	日	第 報	局 報	番 號	紙 數	名氏所居人信受
定 指												
事 記												
モカウセ ノマシ ノワツ ゴイト ト ヨウナキ												
セ タイ オウ ニ モ ボ												
ヘ イ キ ワ ゼ ハ ン ガ												
ン ソ ク モ ヨ ク ボ												
キ ン カ ラ ク ソ ノ タ ガ												
										第 六 三 號		
										印 附 日 信 着		

0673